

創立 90 年 広島国際学院 報

建学の精神
教育は愛なり

第 105 号

平成 30 年 1 月 1 日発行

特集 大学創立 50 周年



目次

特集 大学創立 50 周年	1
特集 インド研修	2
社会に生きる研究を発信 工学部	3
地域を盛り立てる広い知見 情報文化学部	4
歴史と社会に学び、培う人間力 総合教育センター	5
走り出す夢、整備士への道 短期大学部	6
高校から発信	7・8
第 50 回高城祭「colorful」を終えて	9
松本裕見子氏講演会	9
高校新体育館緞帳デザインが決定	10
瑞宝中綬章を受章して	10
中学校新設の申請について	10
「感動塾・みちくさ」ロゴと旗、横断幕制作	11
2017 年 秋季広島県大会 準優勝	11
今後の行事予定	11

高校から発信

走り出す夢、整備士への道

短期大学部

歴史と社会に学び、培う人間力

総合教育センター

地域を盛り立てる広い知見

情報文化学部

社会に生きる研究を発信

工学部

インド研修

特集 大学創立 50 周年

大学 50 周年記念行事

50 周年記念事業実行委員長 酒井 恒



挨拶する李木学長

本大学は昭和 42 (1967) 年に広島電機大学として設置し、平成 10 (1998) 年の学部新設に伴い、大学名を広島国際学院大学と改称して現在に至っています。そして平成 29 (2017) 年に本大学は創立 50 周年を迎えることとなりました。

大きな節目を迎え、11 月 1 日の創立記念日に、広島国際学院大学の体育館において 50 周年記念行事を行いました。来賓 20 名、学生 437 名、教職員 85 名、合わせて約 540 名の参加がありました。

李木学長が開会の挨拶を述べた後、鶴理事長による祝辞が披露されました。その後、卒業生による講演会が行われ、工学部卒業生の佐藤泉様、谷口和久様、情報学部卒業生の矢尾俊祐様、現代社会学部卒業生の藤本倫史様の 4 名にご講演いただきました。

大手電力会社勤務を経てグループ企業の社長などを勤められた佐藤様には、学生時代のことや、会社経営からみて求めたい人材などについて、お話いただきました。現役教員として 30 年目を迎える谷口様には、大学から始め

られたアーチェリーを通じて学ばれたことや、現在、教壇に立たれて取り組まれていることなどについて、語って



各界で活躍する卒業生たち。(左から佐藤様、谷口様、矢尾様、藤本様)

いただきました。グラフィックデザイナーとして活躍中の矢尾様には、学生時代の試行錯誤や将来の夢と可能性の発見などについて、熱いお話をいただきました。スポーツプランナーとして研究、執筆、企画に携わる藤本様は、ご自身が現代社会学部に在学中に学ばれたことなどについて、お話しくださいました。

その後、学友会企画として、ベトナム舞踊や歌、MPA のバンド演奏、吹奏楽の演奏が披露され、さらに参加者全員で学歌を斉唱しました。最後に参加者が「50」の人文字を作り、記念撮影しました。

学生主体で企画し、卒業生も含めた大学全体で取り組んだこの行事は、50 周年を越えて本大学が未来へと前進する道標になりました。



ベトナムの可憐な歌と踊りが参加者を魅了した

50 周年ロゴ制作



50 周年ロゴ

情報デザイン学科の 4 年生がデザインに取り組み、コンペティションを行いました。30 作品の中から、大学協議会において厳正な審査が行われ、河野仁さん (安芸南高校出身) のデザインが採択されました。大学のさらなる発展を願い、お祝い時に使用されることが多いランの花をモチーフにしています。また、生産工学科、食農バイオ・リサイクル学科、情報デザイン学科、現代社会学科、自動車短期大学の 5 つの学部学科を 5 つの花卉に見立ててデザインしました。

決定したデザインは、名刺用として直径 15mm のシールが 4,000 枚、封筒用に直径 45mm が 7,000 枚シールとして印刷され、広く大学の 50 周年を周知し、広報活動に使用されました。

インド研修

9月5
～12日、
インド・
チェンナ
イにある
早川日本
語学校&
文化セン
ターへ学



緊張の自己紹介

生4名、引率教員1名(渡邊真彦工学部教授)で研修旅行に行きました。2016年に早川日本語学校&文化センターと本大学が提携校の関係を結び、研修旅行は2回目となります。

チェンナイは南アジアのデトロイトとも呼ばれ、自動車をはじめとする機械工業や情報産業が盛んな地域で、日系企業の工場も多数あります。インドは多言語国家ですが、多くの方が英語に堪能です。研修の目的は、現地で文化交流を深める中で生きた英語を身につけることです。

ほぼ丸一日かかる長旅を経てチェンナイに着いたのは、日付が変わった午前1時でした。ホテルで休んだのち日本語学校に移動すると、町の中心部にもかかわらず建物の前で牛がリラックス。こういった風景も現地ならではの。

はインドでは神様とされ、とても大切にされているのです。



マハバリープラムの海岸寺院

まずはクマール校長からイン

ドの歴史や文化について英語で説明を受けた後、簡単なタミル語講座を受けました。その後、隣のクラスで日本語を勉強している生徒さんの前で英語での自己紹介です。生徒さんも日本語で一人ひとり簡単な挨拶をしてくださいました。自分が話す英語が通じる体験がとても大切です。

9月と10月はインド全土で様々なお祭りが行なわれる期間だそうです。お客様が来られると、中央のオイルランプに火を灯して歓迎するそうで、我々も授業後に点火させてもらいました。マハバリープラム遺跡をはじめ、寺院などを訪問することで、生活と宗教が密接に結びついていることを学びました。

お昼ご飯はバナナの葉っぱの上のせる伝統的なもの

で、今回はお祭りにあわせたスペシャル仕様とのこと。右手だけを使っていたのですが、結構難しい…でも手で食べるのはおにぎりと一緒に美味しいですよ!



バナナの葉のせられた伝統的な南インド料理

研修では英語でのコミュニケーション授業を何度も受けます。相手の好きな事を聞き出すトレーニングや、イメージ写真などを利用して、分かりやすく説明するレッスンを受けました。最後の仕上げは40名近い現地の方々の前で、日本文化について英語でプレゼンすることです。レッスンのおかげで英語に馴染んできたころなので、非常にスムーズにできたと思います。最後に折り紙の体験や浴衣の着付けも楽しんでいただきました。



浴衣の着付け体験

今回はいすゞ自動車の現地工場見学や、ショッ

ピングモールでの買い物体験など、盛り沢山な内容を準備していただいたおかげで毎日がとても充実しており、あっという間に研修が終了した感があります。学生たちも「もっと長くても良いのに」と名残惜しそうでした。



日本語学校の皆様と

研修に参加した学生たちは、帰国後も現地の人々とSNSなどで連絡をとりあっているようです。国際化が加速する将来、学生たちが多くの国の人々と互いに協力してくれると確信しました。

RI セミナー —光合成細菌による除染の研究—

食農バイオ・リサイクル学科 講師 佐々木 慧

9月28日に、福島県での光合成細菌を用いた除染の研究について広島大学で講演しました。広島大学の自然科学研究支援開発センターのアイソトープ総合部門が主催したセミナーで、同大学の大学院生などを対象としています。

演題は「福島の放射能汚染と光合成細菌を用いた除染の実際～汚染バ
イオマスの減容化から汚染水の浄化～」です。これまでに行ってきた放射能浄化処理の研究について、主に福島県の現状や、私共の研究成果（特に現場での苦労話や地元の方の要望など）を一通り紹介しました。

当日は夏休み中にも関わらず、学生と先生方合わせて30名ほどが聞きに来てくれました。私が広島大学に在学中に大変お世話になった先生も見に来られ、とても緊張しました。皆さん熱心に聞いてくださり、質問も多く、活発な議論ができました。



佐々木講師による講演

広島市消防署員が消防研修 —本学のアドバイザースタッフによる火災調査課程研修—



粉じん爆発の実演をする竹野教授

広島市消防局は近年の複雑化する火災原因を解明するため、平成8年度からアドバイザースタッフ制度を導入し、専門的見識を必要とする「電気」「自動車」「化学」の3分野において専門的な火災原因の解明を行っております。本学の教員はそのアドバイザースタッフに任命されており、火災原因の調査と火災調査員の研修に協力しています。

今回はその一環としての火災調査課程の研修会が8月23日に本大学で行われ、広島消防局火災調査員の約30名が来校されました。午前の化学火災に関する研修は竹野教授が担当し、化学火災の発生要因と鑑識のポイントについて講義の後、実験室にて乾燥剤からの出火や小麦粉を使った粉じん爆発などの実演をしました。

また、午後からは電気火災について歌谷教授が講師を勤め、電気火災の発生要因と鑑識のポイントについて講義の後、過電流による銅線の熔融や屋内配線の断線故障の実演などを行いました。

両教授とも、普段身の回りにある物からの火災について講義と実演を行い、実りある研修会となりました。本学は教育研究だけでなく、火災調査でも社会貢献に努めております。



電気火災の発生を説明する歌谷教授

PICK UP!

JSW 日本製鋼所 広島製作所を見学

生産工学科には機械・電気・情報系のコースがあります。1年生が今後、各コースで学ぶ内容を深く考える材料となり、またその後の就職活動に備えるため、1年次のうちに工場見学を複数回行っていきます。

10月16日、日本有数の射出成型機などを製造するJSW日本製鋼所広島製作所へお伺いしました。最初に会社の歴史や各製品について説明を聞き、その後、射出成型機や押出機の製造工場を中心に見学しました。

同製作所では、射出成型機を製造するために必要な架台などの大型の部品の製造から最終製品の検査、また試作も行っています。このため、真っ赤に溶けた鉄が砂型に鑄込まれる鑄造の工程からはじまり、大型の工作機械による機械加工、組み立て、検査などもものづくりに関する一連の工程をすべて見学できました。

学生たちは、大学の機械実習場にはない巨大な工作機械や鑄造の迫力にびっくりしていました。また、組み立ての作業がとても細かく丁寧であることも驚きだったようです。

今回の経験が、今後の学習や就職活動の動機付けにつながることを願います。



JSW 広島製作所玄関にて

情報文化学部

地域の商店街イベントに今年も参加 ～横川ゾンビナイト3～



年々盛り上がる横川ゾンビナイトに松井市長（前列右）も来訪。学生ゾンビと記念撮影

10月27～28日、広島市西区の横川商店街で行われたイベント「横川ゾンビナイト3」に情報デザイン学科も参加しました。

趙研究室によるゾンビVR体験ブースには2日間で600人以上が来場し、200人以上がVRを体験。ブースには松井一實広島市長も訪れ、学生によるVR映像を絶賛していました。また、HKG声プロジェクト学生は、広島経済大学とのコラボによるラジオで活躍。さ



広島経済大学とのコラボ番組「横川ゾンビラジオ」放送中のひとこま

さらにHKGキャラクタープロジェクト学生の制作パネルが会場の各所に展示され、雰囲気盛り上げました。

イベント全体のボランティアなどにも多数の本大学学生が参加。地域活性化に学生パワーが大きく貢献しています。

地域を盛り立てる広い知見



景福宮の見学にて

韓国研修旅行 —漢城大学校 卒業制作展に参加—

『漢城大学校芸術大学 アニメーション・プロダクトデザイン専攻卒業制作展』（大韓民国ソウル特別市）のオープニングセレモニーに参加しました。参加者は情報デザイン学科3年生の川崎陽平さん、小南匠さん（広島観音高校出身）、大学院修士課程生産創成工学専攻2年生の金山翔さん（三次青陵高校出身）です。

セレモニーでは作者による紹介と共に作品が上映されました。いずれも質が高く、本大学学生も大きな刺激を受けました。研修旅行は11月7日から4日間の日程で、ソウル市内散策や世界遺産『昌徳宮』見学等もあり、韓国文化に触れるよい機会となりました。

PICK UP!

タイで「海外研修」を実施しました

8月25日から9月3日まで、現代社会学科の「海外研修」をタイで実施しました。今回は、主に北部タイでNGOの活動現場やミャンマーとラオスとの国境にあるチェンライ県にあるメーファールアン大学を訪問し、国境を越えたNGO活動やタイの大学生の実態などについて学びました。

北部タイの山岳地帯に暮らす山地民の教育支援（ルンアルン・プロジェクト、アブ-アリ・プロジェクト）、人身売買の問題への取り組み、TJC（Thai-Japanese Children）支援などの具体的な現場を訪問したり、支援者や問題の当事者から直接お話を伺ったりするなどしました。具体的な現場やお話を通じて、日本からではなかなか見えない・分からない問題や取り組みを学ぶことができました。学生交流では、日本とタイの学生事情について意見交換をしたり交流を行ったりしました。互いの生活状況や学びに対する考え方の違いが出て、とても興味深い議論が展開されました。

海外渡航が初めてという4名を含む参加学生たちは、タイに入学した当初は緊張した面持ちだったのですが、現地の人びとのもてなしや交流を通して徐々に笑顔でタイを楽しむようになってきました。今回、タイのみならずには本当に温かく迎えていただき、さまざまなタイ社会の実像に触れることができ、参加した学生にとっては非常に貴重な経験となったのは間違いありません。本当にありがとうございました。



山地民、アカ族の生徒寮「夢の家」での交流会

初年次セミナーⅡ せのがわ学「海田町の歴史と文化」



西国街道について説明するガイドの会メンバー

10月4日、11日に1年生の初年次セミナーⅡで、西国街道・海田市ガイドの会みなさんに大学の地元の歴史について授業をしていただきました。大学から中野東駅へ通じる道は、昔は西国街道と呼ばれ、江戸時代に参勤交代で大名行列が通っていた歴史のある道です。この西国街道の沿道には古い建物や史跡が残っており、それらを学ぶことで学生たちに地元の歴史について理解を深めてもらうため、毎年この授業を行っております。

今年はスライドに加えてプロモーションビデオで解説してくださりました。情報デザイン学科の趙研究室の学生が制作したビデオで、冒

頭部分は昨年11月に「海田町魅力発信動画コンテスト」で最優秀賞を獲得した映像です。

学生たちは大学前の道を大名行列が通っていたことや沿道に現存する古い建物など、初めて見聞きする話に関心を抱き、大学の地元の歴史や文化についてもっと詳しく知りたいと興味を持ってくれたようです。

インターンシップ

3年生の選択科目「インターンシップ」は、キャリア教育科目に位置づけられ、就職課の支援を受けながら大学全体で取り組む、就職支援活動の柱となる授業です。

本授業は他の授業とは異なり、県内の大学や企業によって組織された「広島県インターンシップ協議会」が夏季に実施するプログラムに参加し、実際の就業体験を行います。

授業では、4年生から始まる就職活動に先立ち、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会を提供し、主体的な職業選択や高い職業意識の育成を目的としており、学生は自分が興味ある企業や仕事を選択して、実際の仕事を体験することができます。

今年度も45名の学生が県内企業で就業体験を行いました。「インターンシップ」の経験は、アルバイトとは異なる、他では得がたい社会経験になります。その経験を通じて自分が何に気づき、そこから何を学んだのかを振り返ることは、これからの就職活動にも役立ちます。実際、就職活動に対する意識が高まり、目標が明確になることで、毎年この講義を受講した学生が早期に内定を獲得するなどの効果も出ています。



インターンシップ後の発表会

研究室紹介

自分をみつけ、創造し、社会に伝える

情報文化学部 情報デザイン学科 岡川卓詩 研究室

自主的に制作したイラスト、映像作品はSNSや動画共有サイトなどに簡単に公開でき、世界中の人々の目に触れることができるようになってきました。それらは趣味として

発表する領域を越え、大企業とのタイアップでさらに大きな仕事を獲得することや、たくさんの収入を得ることができる職業としても成り立っています。

岡川研究室では、映像、アニメーション、イラスト、デザインなど様々なジャンルから自発的に取り組みたいことを探すところから始め、発想法から企画書の作成、ディスカッション、プレゼンテーション、制作、発信など、必要な実践のプロセスを学んでいきます。表現系の作品は自己満足で終わることも多いのですが、研究室ではコミュニケーション能力や社会へ伝える力を重要視しています。表現を伝える方法論や技術、知識は専門や仕事だけに限らず、日々の営みにも必要なことです。ここで学んだことが、今後の人生を切り開いていく力になればと考えています。



ゼミの様子

短期大学部

2級自動車整備士技術講座 開講式

10月16日、今年度の2級自動車整備士技術講習会の開講式を行いました。この講習会は、整備士の国家検定実技試験を免除するためのもので、並行して検定学科試験の受験対策も同時に行っています。

開講式では、広島県自動車整備振興会指導部教育課長の相原様から、現在の整備業界の現状や課題および整備士の仕事の重要性や必要性等が話されました。また、李木学長や知名短期大学部長は、約半年間の講習期間を通じて、技術や知識をさらに深めることや、この講習会に取り組む姿勢を強調しました。

今年は56名の学生が受講し、学科講習と実技講習を行います。また期間中には、学生を教員に割り当てて行う個人指導も実施され、2月や3月に入ると土日と返上して補習や、自主勉強があります。このようにして毎年、学生と教員が目的に向かって一丸となって取り組み、「国家試験全員合格」を目標に頑張っています。



相原教育課長からの説明を受ける学生たち

整備のプロを目指して —広島日野自動車工場見学—

9月8日、1年生65名と教職員4名が就職支援授業の一環として、広島日野自動車(株)の工場見学に行きました。13:00から開会行事が行われ、その後、A組・B組の2班に分かれ、講義と整備工場見学を行いました。

講義では、最新鋭のトラック・バスの安全運転支援システム(例:運転手が体調不良の時、バスが自動で路肩に停止等)の紹介や2020年の東京オリンピックに向けたバスの自動運転技術の紹介がありました。また、工場見学ではトラックの車検整備の様子を詳しく説明していただき、作業の一部を実際に学生に体験をさせていただきました。最後に本社前で記念撮影の後、解散しました。

自動車整備士を目指す1年生にとって、普段の講義や実習と、実際の現場との関連性がより明確になった見学でした。



トラックの車検整備を見学する学生

走り出す夢、整備士への道

PICK UP!

全国自動車短期大学研究発表会

8月3日に北海道科学大学短期大学部で第49回全国自動車短期大学協会研究発表会が行われ、本短大の夏明成己講師が「自動車競技における、成績向上のための指導方法に関する取り組み」という題目で発表を行いました。

本短大は全日本学生自動車連盟の加盟校で、全国の大学とジムカーナなどいろいろな競技を競い、好成績をあげていますが、他の4年制大学に比べると指導期間が短く、成績を維持するのが難しいという問題があります。そのため、短期間で技術を向上させる指導方法を研究したものです。

学生の多くはコーナーリングとハンドル操作が難しいと感じており、それを克服するための簡単な装置を作成し、走行練習を行った結果をまとめました。従来、専用のコースでしか体験できない車の動きが学内の舗装した広場でも実現でき、運転技術の向上を図れることを確認しました。更に装置の改良で、より高度な運転技術を習得できるという結論です。学内でも運転技術向上が図れるという点で皆さんの関心を集めました。



夏明講師による発表

修学旅行

10月16～20日

(屋久島・種子島とグアムコースは12月13～17日)

台湾

普通科2年 石原 愛華(二葉中学校出身)



台湾総督府にて

私は台湾に行きました。初日は台北101展望台に行きました。87階までをエレベーターが37秒で上が

るというのを聞いてびっくりしました。2日目は現地の高校生との学校交流がありました。皆さんとても優しく、本当に楽しかったです。その後、博物院に行って衛兵交代式を見ました。衛兵が1時間も静止できるのはすごいと思いました。3日目は総統府見学をしてから、現地の大学生ガイドと班別自主研修でした。大学生は日本語が上手で、行きたい所に全部連れて行ってきて本当に良い方でした。4日目はパイナップルケーキ体験とお茶教室がありました。九份にも行きました。「千と千尋の神隠し」で出てくる所と似ていてきれいでした。最終日にはたくさんお土産を買えました。台湾にまた行きたいなと思いました。

北海道

普通科2年 小村 実優(海田西中学校出身)



酪農体験で牛のえさやり挑戦

私は4泊5日を北海道で過ごしました。1日目に行ったのはアイヌ民族博物館、白老ポロコタンです。アイヌの言葉や伝統などを学び、昆布もアイヌ語

だということに驚きました。

2日目の午前中は尻別川でラフティングをし、午後は酪農体験をしました。

3日目の午前中は小樽で自由行動でした。午後は北海道開拓の村、大倉山シャンツェ、藻岩山での夜景観賞と、バスで3ヶ所も巡りました。

4日目は旭山動物園、ラーメン村、テレビ塔、札幌での自由行動などがあり、ラーメンや豪華な海鮮丼を食べられて幸せな一日でした。最終日は場外市場と支笏湖へ行き、北海道を満喫できました。

5日間で学んだことは、「感謝」や「ありがたみ」です。色んな体験を通して学び、楽しく充実した日々でした。

屋久島・種子島



屋久島の紀元杉

沖縄

普通科2年 天満 美羽(楠那中学校出身)



ひめゆりの塔に平和を祈る

私は人生で初めて沖縄へ行きました。5日間の中で特に印象に残ることを書きたいと思います。一つ目は、平和学習です。現地のガイドさんのお話を聞いていると、想像もつかないくらい悲惨で涙が出そうになりました。糸数壕とひめゆり平和資料館に行けたことで戦争の恐ろしさに改めて気づくことができました。二つ目は、マリンスポーツです。想像していたよりも海がとても

もきれいで驚きました。さんごや海を保って汚さないでほしいと思いました。三つ目は美ら海水族館と国際通りの自由行動です。水族館はとても広く、たくさんの種類の魚がいて感動しました。国際通りではたくさんのお土産を買い、おいしいスイーツを食べました。この修学旅行で、沖縄が前よりも大好きになりました。絶対にまた行きたいです。

グアム



アフガンの崖から

オープンスクール

平成29年度オープンスクールは、台風接近による悪天候のため初めて順延となり、9月18日の午前と午後に開催しました。17日参加予定者には18日午後に順延すると2日前に告知。915名の中学生や保護者の方に参加いただきました。午前の部も1,128名が参加。合計2,043名に向けて、本高校をしっかりとPRしました。

オープンスクールのコンセプトは「いかに本高校の雰囲気を感じてもらえるか」。短時間に国際学院の雰囲気を感じてもらうため、生徒が中心となり運営していきます。体育館での学校説明会の司会や説明、講座見学誘導、受付や昼食引き替えも全て生徒が担当します。400名以上の生徒が普段と同じ、飾り気のない姿を見せることによって、中学生に束の間の「国際生」を体感してもらいました。アンケートでも「国際的な楽しい雰囲気が伝わった」など高評価を多数いただき、思い出に残るオープンスクールになったことと思います。

現校舎によるオープンスクールは今回で最後。来年度からは新校舎にて、新たな本高校のPRをしていきたいと思っています。



現役生徒による学校説明会

国際交流：フランスから高校生が来校

10月24～26日、フランス・パリのラ・トゥール高校より、高校生14名がやって来ました。本高校の生徒の家にホームステイし、25日は学校で交流を行いました。国語、家庭科、数学、英語の授業に参加し、茶道、剣道を体験しました。フランスでは家庭科の授業がないということで、フランスの生徒たちは裁縫の授業に興味津々でした。

最後は、国際交流委員と交流授業を行いました。フランスの生徒たちは、第3言語として日本語を学習しているので、日本語や英語でコミュニケーションをとっていました。両校の生徒たちはすっかり仲良くなり、期間が短すぎることを残念がっていました。次回はもっと長く交流できるといいですね。



「数学は解けそうだ」とトライ!



みんなで力を合わせ作り上げた展示「国際調べ」

2年生が行う展示で何をするか、今年の文化祭のテーマでもある「メモリー」を題材にクラス皆で考えました。最終的に「国際調べ」という、90年にもなるこの学校の歴史を調べる展示になりました。私たちのいる1号館は今年で取り壊されるので、その記憶を残すためにも意味があると思います。他のクラスに比べ楽しさには欠けるかもしれませんが、とてもためになりました。

私が担当したのは学校の沿革で、「国際調べ」において核とも

第56回文化祭

普通科2年 谷 宗一
(二葉中学校出身)

なる重要な部分なので、心してかかりました。多くの先生や資料に力を借り、パワーポイントを使った展示を無事完成できました。その時の達成感涙が出るほどうれしいものでした。クラスの他の皆さんで調べたり、模型を作ったりしていました。前日の遅くまで準備し、何とか間に合いました。

当日は展示と模擬店の両方を見ないといけないので、とても忙しかったです。展示は若い人には不人気だったが、保護者や地域の方に観てもらうことができました。模擬店では、餃子とガリガリ君ソーダを売りました。この寒い時期にと赤字覚悟で臨んだが、ソーダに続いて餃子も全部売れました。模擬店では、皆と協力することができ、とても楽しかったです。

展示の準備をしていて、誰よりも私たち国際学院高校の生徒が、学校の歴史を知ること多くの意味があると思いました。何気なく過ごしている教室や校舎などには、多くの歴史が刻まれていると思います。とても楽しく充実し、そしてためになる文化祭にすることができました。

第50回高城祭「colorful」を終えて

第50回高城祭実行委員会 委員長 松井 高之介
(食農バイオ・リサイクル学科4年 広島県立西高等学校出身)

10月14～15日に広島国際学院大学中野キャンパスにて、第50回高城祭、テーマ「colorful」を開催しました。

1日目の当夜祭は本大学吹奏楽部の演奏と、地元の中野東小学校和太鼓同好会による太鼓の演奏からステージ企画が始まりました。「仮装大会」はクオリティの高さで昨年同様に観客を魅了しました。新企画の「腕相撲大会」では男子学生たちが息詰まる接戦を繰り広げました。井村尚嗣さんとうえむらちかさんによるトークショーなどもありました。1日目のメインイベントである「抽選会」はテレビやPS4などの豪華賞品があり、この日最大の盛り上がりとなりました。

2日目の終夜祭はHDC(広島ダンスカンパニー)およびK.D.S DANCE SCHOOLによるダンスでスタート。10号館5階MV教室で松本裕見子さんの講演会が、ステージでは本大学HKGメディアプロジェクトによる公開ラジオが行われました。一般参加型の〇×クイズ大会もありました。2日目のメインイベントである「ゲストライブ」も大変な盛り上がりを見せました。今年は記念すべき第50回目の高城祭であり、テーマも「colorful」ということで質量ともに歴代最高の花火を打ち上げました。

来場者数は14日が387名、15日が794名、総来場者数1,181名でした。15日の雨天が原因なのか、昨年より総来場者数は少なかったものの、総来場者数が1,000人を超えることができました。

私が主として携わり、また大学生活最後の高城祭が最高の形で終わることができよかったです。地域の皆様や本大学の学生、教職員の皆様、関係企業、関係団体の皆様、そして高城祭に参加、来場して下さった皆様、本当にありがとうございました。来年の高城祭は今年の盛り上がりを超えることを願っています。



新企画の腕相撲大会では白熱の攻防が続いた



〇×クイズ大会も盛況だった

PICK UP!

「向き不向きより前向き！元気を出すコツ!!」

—松本裕見子氏講演会—

10月15日、中野キャンパス10号館にて、タレントの松本裕見子氏による講演会を開催しました。松本氏は司会、レポーターとして数々のテレビ・ラジオ番組やコマーシャルに出演。明るいキャラクターはお茶の間の顔として親しまれています。

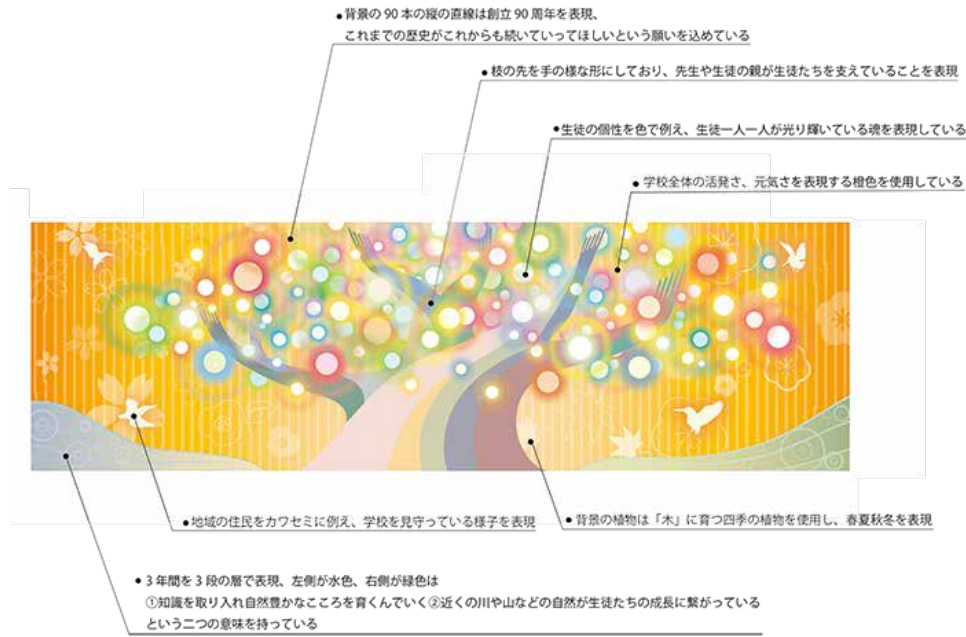
「向き不向きより前向き！元気を出すコツ!!」と題する講演は、今シーズン連覇を果たした広島東洋カープの話題でスタートしました。マジック点灯からなかなか優勝が決まらずやきもきする中、ついに優勝が決まり、歓喜に沸きかえった街の様子もプレイバックされました。店先で樽酒が割られ、本通りでは誰からともなくハイタッチ行列が始まり、松本氏自身もいつの間にか胴上げされていたそうです。

講演で松本氏は5つの「元気を出すコツ」を提案。「起こってもいないことを嘆かない」「目から笑顔で」「出会いに感謝」「隣にいる人を大切に」「生まれてきたことを楽しもう」というテーマにちなんだエピソードを紹介しました。また、ひらがなで先頭の1文字を並べると「おめでとう」となり、本大学創立50周年を祝うメッセージとなる嬉しい仕掛けもありました。楽しいトークに会場は終始笑いに包まれていました。



松本裕見子さん

高校新体育館緞帳デザインが決定



卒業生、小川知佳さんによる高校新体育館緞帳デザインのコンセプト

広島国際学院高校新体育館の緞帳が、情報デザイン学科4年生の小川知佳さん（広島国際学院高校出身）のデザインに決定しました。

『成長』をテーマとして、生徒の魂や個性、先生や保護者の支えを明るい色調で大樹を中心に表現しています。生徒の魂を

豊かに実る樹の実や雄々しく茂る樹の葉に見立て、それを支える大樹は先生や保護者として表現しています。90本の縦線は学校の歴史を表現しており、水や四季折々の動植物は地域の環境をデザインしています。三本の線で河川を抽象化し、淡い青を使用することで、3年間知識を積み重ねることを表しています。

鶴素直理事長、森崎恒夫校長、田中満彦副校長、岡田隆治教頭、長延公平主幹教諭にもお話を伺い、プレゼンテーション、高校での生徒や先生の投票、デザイン修正を経て2次審査を実施し決定しました。製作にあたり、さらに修正を加え、現在製作が進んでいます。



瑞宝中綬章を受章して

菅 博 (昭和31年 広島電機高校電機科卒・大阪工業大学名誉教授)

60年前、希望の高校に入学、初めて校舎を目前にした時の嬉しさは今でもはっきり思い出されます。入学してからは「教育は愛なり」を自然体で行って下さる教職員の下、多くの友達と充実した日々を過ごしました。授業の合間の、巨大な造船所や大学の最先端の研究室見学等は、未来への向学心を掻き立てられるものでした。卒業後の進路についても親身なご指導を頂き大学、大学院博士課程まで進む事ができました。高校の卒業式で頂いた成績優秀賞と今回授与された勲記は、我が家の宝物です。今後は、宝物に相応しい生活を送りたいと思っております。

中学校新設の申請について

広島国際学院高等学校

本高校は、建学の精神「教育は愛なり」のもとで、創立者の深い信念に基づいた教育を礎として、これまでも様々な教育改革に取り組んでまいりました。今般では、さらにICT活用などにより21世紀型の教育を含めた教育が求められるようになってきました。このような状況下にあつて、本高校が目指す教育の実現に向け、より一層の教育環境の充実を図るため、中学校を設置することを計画しています。現在、平成31年4月の開校に向けて手続きをしているところです。中学校校舎は、平成30年1月中旬に完成します高等学校「新」校舎に隣接する校地に、新しい中学校校舎を建設することにしています。

「感動塾・みちくさ」ロゴマークデザインと大会旗、横断幕制作



「感動塾・みちくさ」ロゴコンセプト

公益財団法人広島市文化財団から依頼をいただき、情報デザイン学科4年生の重松亜侑美さん（松山南高校出身）と小川知佳さん（広島国際学院高校出身）が2017年5月から取り組んできた「感動塾・みちくさ」のマークデザインが決定し、大会旗と横断幕が完成しました。

「感動塾・みちくさ」は、小学3年生から6年生を対象として広島市青少年野外活動センター、広島市三滝少年自然の家、広島市似島臨海少年自然の家の3つの施設で、自然や科学をテーマとした活動です。

調査、コンセプト立案、デザインを経て、6月には、公益財団法人広島市文化財団ひと・まちネットワークにおいて審査員の皆様の前でプレゼンテーションを行いました。「発見」「希望」「成長」「優

しさ」などをキーワードとして、何度も修正を繰り返しながら完成に至りました。公益財団法人広島市文化財団の皆様をはじめとする実行委員会の皆様にもお褒めをいただき、感謝状をいただきました。

重松さんと小川さんが出席予定だった似島臨海少年自然の家での開塾式は、残念ながら台風の影響で中止となりましたが、広島市青少年野外活動センターと広島市三滝少年自然の家では、スタッフの方が小学生にデザインコンセプトを説明してくださいました。「感動塾・みちくさ」の活動が続く限り、このマークや大会旗は続くとのことでした。

2017年 秋季広島県大会 準優勝

広島国際学院高校硬式野球部 監督 長延 公平

本高校硬式野球部は、2017年秋季広島県大会で準優勝という結果で終わることができました。これも日頃から、硬式野球部にご支援いただいている皆様方のおかげです。この結果に満足することなく、部員45名が1つになり、また来春入学してくる1年生とともに「こころの強い」選手に成長していきたいと思えます。今まで同様のご声援をよろしくお願いいたします。



開会式に臨む選手たち

【2017 秋季県大会 試合結果】

地区リーグ戦

瀬戸内高校	○	2 - 2
安芸府中高校	○	11 - 0 (6回コールド)
安西高校	○	8 - 7 (1位通過)

広島県大会

1回戦	総合技術高校	○	10 - 0 (6回コールド)
2回戦	吉田高校	○	4 - 2
3回戦	広島商業高校	○	7 - 4
準々決勝	福山工業高校	○	9 - 2
準決勝	瀬戸内高校	○	7 - 3
決勝	盈進高校	●	2 - 8

	1月	2月	3月	4月
※赤字は公開行事です 今後の主な行事予定	9 授業開始	1 一般入試前期 (~2) 16 【現社】卒業論文発表会 5 後期末試験 (~9) 13 学内業界研究セミ (~14) 16 【情ア】卒業研究・卒業制作選抜展 (~18 アステールプラザ市民ギャラリー)	2 特別研究成果報告会 2 教育シンポジウム (~3) 9 一般入試後期 19 卒業証書・学位記授与式	5 入学宣誓式
	9 【1年】授業開始 10 【2年】授業開始 11 合同企業研究会 (~12) 20 オープンキャンパス 23 後期末試験 (~25)	1 推薦入試 17 オープンキャンパス	19 卒業証書・学位記授与式 27 オープンキャンパス	5 入学宣誓式
	9 始業式 25 【3年】卒業試験 (~31)	2 推薦入試 11 マラソン大会 15 一般入試 (~16)	1 卒業式	7 始業式 8 入学式

●この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

●高校生以上の方に図書館を開放しています。詳細は図書館までお問い合わせください。 TEL:082-820-2536

発行/学校法人広島国際学院 法人本部
編集協力/学生広報スタッフ
住所: 〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目20-1 電話: (082)820-2345